

(2) ほ場（作物）の管理

1) 防護柵内は野生獣から見えない側に実らせる

サルは、目で直接確認できる農作物に被害をおよぼすことが多い。そこで、トマトやイチゴなどは、防護柵の外周から見えにくい側に果実を実らせる（野菜苗は実の成る側をほ場の内側にに向けて揃えて植える）ことで、被害が軽減できる。

2) ツル性の農作物は畑の周囲でなく中央部に植える

自家用菜園など多品目で栽培している畑では、インゲン、ソラマメ、エンドウなどのツルを伸ばす野菜を、畑の周囲ではなく中央部に植える。畑の周囲に植えた場合は、防護柵で囲ってもツルが柵外に伸びるため、食害されやすい。

3) 野生獣の掘り返しから守りやすい栽培方法

サツマイモやジャガイモは竹や樹脂製のトリカルネット（編んでいない、抽出成形によるプラスチックネット）をマルチングすると、サルによる引き抜き被害が防止できる。地表に竹を少し隙間を空けて並べて固定したり、トリカルネットをマルチングし、資材の隙間からサツマイモの挿し苗をしたり、資材の下にジャガイモの種芋を植える。

4) カボチャやスイカの立体的な栽培

カボチャは、ネットに沿わせて立体的に栽培する。スイカは、ネットに沿ってツルを誘引し、受け棚の高さに開花した雌花を育て果実を成らす。いずれの方法も、また狭い用地でも畑外にツルがはみ出すことなく栽培でき、防護柵で囲みやすくなる。

5) 果樹の低面ネット栽培

農業用パイプで、高さ1mほど（農家が作業しやすい高さ）の骨組みを作る。そして、水平もしくはトンネル状に張ったネットに果樹の枝を這わせて栽培する。ウメ、カキ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ、イチジクなどに活用できる。このように果樹を低く仕立てることで、防護柵で囲いやすくなる。また、高い所に登

る習性があるサルにとって、侵入や逃走経路となりにくい。



スイカの受け棚栽培



サツマイモの竹マルチ栽培



カキの低面ネット栽培



キウイフルーツの低面ネット栽培

* 上記の写真は奈良県果樹振興センター内の猿害防止展示コーナーの実例である。

(3) 休耕地や耕作放棄地の管理

- 休耕地や耕作放棄地では、野生鳥獣の餌場や隠れ家にならないように、定期的に雑草を刈るか、耕転をして雑草の生育を抑える。
- 人手だけでは十分な草刈ができない休耕地や耕作放棄地は、家畜（牛や羊など）を放牧したり、防護柵で囲んだりする方法もある（放牧の詳細は97ページ参照）。
- 休耕地や耕作放棄地がモザイク状に散らばっていると野生獣が進出しやすくなるため、農地の利用集積を図り、草刈りや牛の放牧などで管理する方法もある。



草刈の行き届いた耕作放棄地



管理できない耕作放棄地を防護柵で囲う